

〔駒沢女子大学 研究紀要 第24号 p.165 ~ 178 2017〕

留学生と学ぶ異文化理解

保坂律子*

Study on Education of Intercultural Communication with International Students

Ritsuko HOSAKA*

要旨

筆者は平成16年开始在本大学担任以异文化理解为教学目的这一课程。最初授课的对象是日本学生，主要是让她们了解中国文化，最近几年留学生也可以选修这门课了。本课要求学生听课后写感想，留学生在课后感想中写了很多她们自己亲身经历的一些事情，日本学生从留学生那里也获得了很多她们想知道的情报与信息。本文试着从中国留学生与日本学生所写的感想中找出一些可以帮助理解异文化的线索。

0. はじめに

筆者は本学で平成16年度から異文化理解を目的とした授業¹⁾を担当している。保坂2016ではその13年間の取り組みを振り返り、今後の授業の方向性と課題について取り上げた。そこでは開講当初日本人学生を履修対象として想定した「異文化との出会い」「中国異文化紀行」が、ここ数年留学生も数名履修するようになってきていること、履修の動機も「時間割が合ったから」という消極的なものから「自分も知らない中国のことを知る」へと変化が見えつつあることを述べた。さらに授業後の留学生の感想票も「ありがとうございました」や「初めて知りました」から、毎回のテーマについて自分自身の具体的エピソードを記すように変化が見られ、留学生の感想票から日本人学生が得られる生の情報も増えつつある。

日々の私たちの生活はすでに中国人がふつうにいる環境へと変化している。本稿は授業の感

想票に記された中国人留学生、日本人学生のコメントを身近な学生間で学ぶ異文化の格好の機会ととらえ、相互の情報発信の一助とすべく、試みを報告するものである。

1. 授業の概要

1.1 授業の流れ

筆者が担当する異文化理解授業は、平成16年度、平成17年度は前期「異文化との出会いⅠ」、後期「異文化との出会いⅡ」として開講され、平成18年度からは「異文化との出会い」として半期2単位の講義課目となった²⁾。平成28年度からは「中国文化紀行」として開講されている。授業は全15回、初回はオリエンテーションとして全授業のダイジェスト版をパワーポイントで紹介、その後第2回から第14回までは自前教科書の第1章から順に第13章まで進む。授業は教科書と筆者撮影の写真資料を中心としたパワーポイントと、ビデオやDVDなどの映像資料を

*人文学部 心理学科

利用して進める。

1.2 本年度の講義内容

本年度の教科書各章のテーマは以下の通りである。

1. 国家のシンボル
2. 風土と地理
3. 多民族国家
4. 中国の足
5. 教育制度と学生生活
6. 色のイメージ
7. 外来語とブランド
8. 人気の本、アニメと懐かしい子どもの遊び
9. オリンピックと万国博覧会
10. 京劇
11. 消え行く古きよき街並み
12. 伝統の味とファストフード
13. 中国トイレ事情

1.3 授業展開

授業は1回の授業で1章完結、初回授業のオリエンテーションに続き、2回目の授業からは第1章から順に毎回1章ずつ進む。授業ではまず初めに前回の感想票に記された質問に答え、日本人学生、留学生の特徴的な感想や意見を紹介し、学生に中国と日本の違いに気付かせ意見を交わす。必要に応じて教員が関連情報などのデータを補い、その後当該回の授業テーマに入る。学生は授業終了10分前から感想票を記入し、提出する。教員は次回までに感想票の内容を精査し質問があればその答えや補足資料を準備し、次回授業で紹介する感想や意見を選ぶ。この繰り返しである。出席確認を兼ねた感想票はA5サイズの用紙で、記名の上感想や意見、質問等を記入し提出する。

2. 感想票に記された日中両学生のコメント

ここでは授業で感想票の記述量の多かった7つのテーマを順に取り上げ、留学生と日本人学

生の主なコメントを紹介したい。

2.1 第5章「教育制度と学生生活」

この章では、中国の学制と学生生活を紹介した。大学のほかに、日本では紹介されることの少ない小学校、高校の寮を含む多くの写真資料のPPTと映像資料では中国の90年代の大学³⁾現在の大学⁴⁾を紹介し、また小学校の映像資料³⁾も紹介した。現在より貧しかった1990年代の写真資料、映像資料の使用にあたっては、留学生の自尊心を損ねるのではないかと心配した。しかしそれは教員の杞憂に過ぎず、留学生のコメントは「そういう時代があった」と思いはしても、恥じる気配はなかった。履修中の留学生がすでに豊かになった中国に生まれ、貧しい時代を体験していなということもあるだろう。この回は日中両方の実体験の紹介や体験に基づくコメントが多く記されていた。

2.1.1 留学生から

- ・昔の小学校の映像を見たら、懐かしいと思っています。時代が変わった。今の小学校と大学が大きく変化したと思います。
- ・中国の小、中、高等学校生活はすごく辛いです。朝早く起きる、夜は塾も必ず通っていた。大学に入るまで非常に辛い勉強生活を12年も送ります。また、今の中国の子供も、3、4歳からいろいろなゼミに通いはじまります。
- ・中国の大学の入学式を見て、にぎやかだなと思います。カードも非常に便利です。
- ・ビデオで「大学生街」を見た時、高校時代の生活を思い出しました。私の高校時代も寮に住んでいます。たしかに学校のとなりにいろんな食べ物屋があります。あまり衛生的でもないけれど、おいしいですから気にしない。
- ・今の中国はごく少数の地区で12年義務教育を実施しています。ほとんどの地区はまだ9年義務教育です。授業で見たビデオの言い方とちょっと違うと思います。

・北京の小学校のビデオ見たが、普通の小学校の校舎とかとは少し違います。昼寝する部屋と給食はそんな感じでした。中国の小学校1クラス大体5、60人くらい程度はいます。ビデオで見た学校は結構いい学校だと思います。

・北京電影大学はすごいです。多くの有名な俳優さんがあそこ出身です。監督も。“张艺谋”、“陈凯歌”、“蒋雯丽”、“赵薇”、“黄晓明”⁵⁾ など。お母さんは昔から「山口百恵」さんのことが大好きでした。自慢ではないですが、お母さんは本当に山口百恵と激似です。大好きなアイドルの真似もあるだろうと思うが、若い時の写真はそっくりでした。

・20年前の中国はやばかったですね。現代に生きていてよかったです。

・1990年の北京大学と北京電影大学についての映像を見ました。90年の中国の大学の風景や大学生の状況が大体分かりました。その時の大学の宿舎が狭かったのです。大学の食堂の料理も少なかったのです。今の大学の宿舎と食堂の条件はよくなりました。

2.1.2 日本人学生から

①就学前教育について

・中国の保育園に「全託」⁶⁾ というシステムがあり子供が5日間親と離れていることは少し可哀想だが、共働きが多い中国では合理的だと思います。

・就学前から「全託」制度があるのは、最初は寂しくないかと考えたけれど、両親が共働きで一人っ子政策で家で寂しく過ごすよりは良いかなと感じました。香港で12年間過ごしてきた関係で、中国の地元の小中学校の生徒と交流する機会も多かったので、とても懐かしく感じました。

②小学校について

・小学校でも寮に寄宿している児童がいたり、給食の配膳を教師が担当したりしているところ

が日本の小学校と違うと思いました。

・小学校で寮があり「学校に住んでいる」というのには驚きでしたが、共働きで忙しい親にとってはありがたい話だろうなと思いました。

・小学校で寝泊まりしている子がいるのは驚きました。日本では学童みtainな放課後に少しだけ預けて親が仕事帰りに迎えに来ることはあるけれど、宿舎がある小学校は聞いたことがないと思いました。

・寮にすむ児童は親と離れて寂しいのだろうと思ったが、中国では普通で、日本ではこういう制度がないのでそう思うのかなと思った。

・小学校に車や自転車で送り迎えする親がいるのを見て驚きました。

・中国の学校は「集団登校・下校」という日本では当たり前のことがないのでしょうか？

・小学校入学前から将来入りたい大学の見学に来るのはとても意識が高いし、日本も見習うことがあると思いました。

・小学校の朝礼が日本と大きく違った。国旗を掲揚し、国歌を歌うところから、愛国心、忠誠心を感じた。

・小学校の朝礼で国歌を歌ったり、国旗を揚げたりして特徴的だったと思った。日本では卒業式、入学式しか国歌を歌う機会はないし、生徒が国旗を揚げる作業は見たことがないので統制みたいなもんが厳しそうだった。

・校舎内に「祖国を愛す」などのスローガンがかかっていて愛国心っていうのは日本より全然あるんだろうと思いました。

・小学生が授業で積極的に手を挙げて参加して、先生も活発なところが印象的でした。

・小学校の頃から英語のみで英語教育を受けていて羨ましいです。休み時間の「目の体操」などを見ても、中国が子供の教育を大切にしていることがわかります。日本では義務教育がある

ので子どもたちが一定以上の教育を受けることができますが、中国では貧富の差が激しく皆がこのような教育を受けられるのではないのでしょうか？

・貧富の差、“希望小学校”⁷⁾。最初にビデオやPPTで見た小学校や子供たちのあとに、この状況を見ると、難しい問題がまだあるのだなと思ひ辛いです。

・近視を予防するための、目の保健体操を一齐にやるのは興味深かったです。

・中国の小学生の勉強に対する姿勢が良いと思ひ、意欲が感じられた。

・中国の小学校にはプールや校庭が無いところがあると知り、驚きました。日本ではありえないと思ひました。

③中学校、高校

・中国の中学や高校では部活動をしているのか気になった。

・中国の中学校の運動会は記録会みたいで、日本と違って運動が出来ない苦手な人には嫌だろうと思ひました。実力のある人が活躍して、できる人は楽しみだろうと思ひました。

・高校では女子も軍事教練があるのに驚いた。

④大学入試

・大学入試は日本と比較しても本当に大切なイベントということが分かりました。授業の様子も「本気！」という印象で、学生が勉強熱心でした。その一方で経済格差にともない教育格差という問題が存在することが分かりました。

・中国の大学受験は一発勝負のため、その分受験にかける学生本人の思いや、保護者の思い、サポートの大きさも日本とは違うなと感じました。

・大学入試では試験会場の近くの道路は「クラクション禁止」など配慮がすごいと思ひました。チャンスが年1度しかないということに驚きました。そのため、試験に遅れそうになるとタク

シーに無料で乗せてくれたりするのだと思ひました。

・大学入試に落ちた人はどうするのか、その後は仕事をするのですか？

・中国では大学入試が1年に1度というのに驚いた。1回しかチャンスがないなんて日本では考えられませんでした。ということは、大学志望者が少ないのでしょうか？

・日本ではよくいる浪人は中国ではなぜ少ないのか？それほど学歴が必要なのか、みんなが頑張り屋さんなのか？

・中国の大学は私立が増えてきているといっても、8割が国立なので日本よりも受験の倍率は高いのかなと思ひました。

⑤大学生活

・90年代の大学生生活のビデオを見て、食堂で使う自分の食器を鍵がかかる靴箱みたいなロッカーで保管して食事の時に利用するのは日本にない習慣で驚いた。

・90年代の大学の宿舎が狭くて驚いた。シェアハウスみたいでワイワイ楽しそうだったと思ひましたが、プライバシーはなさそうだった。

・映画大学の女子学生が皆きれいで整った顔立ちで、さすが将来スターを目指す大学だなと思ひました。

・大学の寮が4人一部屋でとても狭く、大変そうだった。でも図書館が夜遅くまで利用できて、男子学生も女子寮に入れるというのは日本と違うところでした。

・大学に教育施設以外もあるなんてすごいです。寮も必要な施設もあって、大学が街のようになっているように思えます。こんな大学だったら勉強を頑張って入学したいと思ひそうです。このような大学によって人々の勉強への意識、学力、能力が上がっていったらいい国、エリートが多い国ができそうです。

・中国で現地の学生の話聞く限り、中国にお

いての受験は一大イベントで、また大学に入学してからは日本みたいにバイトをしている人はほとんどいなくて、空き時間は勉強している人が多いようでした。「受験が全て」と言っても過言ではないくらい大変そうで、韓国以上の学歴社会の部分があるのかなと感じます。

- ・国土が広い中国は大学の規模も大きく、キャンパスの外周が5kmや8kmといった大学の広さに驚きました。キャンパス内に生活に必要なものが揃っていて、生活に困らないようになっていることが分かりました。

- ・中国にも女子高や男子校、女子大が存在するのか気になりました。

- ・大学に寮制度があったり図書館が24時間開いていたり便利でいいなと思いました。自分と同世代の中国の学生生活環境を知れて新鮮で楽しかったです。

- ・中国の大学のDVDを見て驚きました。大学の規模の大きさや、学部学科の多さ、中国の大学で国立大学が占める割合などを知り、中国は学歴社会だというイメージが強かったのですが、改めて教育に力を入れているんだなあと思いました。

- ・大学のキャンパス内に映画館とかスーパー、病院、美容院など日本ではありえない施設が多数あり、羨ましいと同時に大学のキャンパスは一大生活圏だと思いました。

- ・大学の教員もキャンパス内に家族と住んでいることを知り、学生と会った時に変な感じがしないかと思いました。

- ・日本では休日に大学を訪れる人はほとんどいないが、中国では大学をうまく利用し、大学を町の施設の一つとして休日も利用していた。日本でも大学を勉強する場だけでなく、生活の一部としてうまく活用すべきだと感じた。

- ・中国の学生電子カード、オールインワンカードはとても便利だと思いました。この一枚で学

内スーパーでの買い物や図書館のデータベースの利用やシャワーやポットのお湯まで利用できるのは有意義でとっても魅力的でした。

- ・大学の中にある学生寮もお祭りみたいに人が多くて、毎日こんな生活をしてたら疲れてしまいそうです。

2.2 第7章「外来語とブランド」

この章ではカタカナと平仮名を持つ日本とは異なり、この章では漢字のみ文化圏の中国が外来語をどのように受容しているのかを紹介した。特に、日本語を含めた外来語のブランド名、商品名をどのように中国語表記しているのかについては、音訳、意識、音訳+意識とその効果などについて解説し、筆者撮影による商品や看板、新聞などの写真資料を中心に豊富な実例を紹介した。この章も第5章と同様に学生のコメントが多く、留学生からはブランド表記に対する若者らしい評価が記されていた。

2.2.1 留学生から

- ・“百奇”(ポッキー)は今150円くらいになりました。先生の写真の3倍くらい高くなりました。

- ・“可口可乐”(コカコーラ)、“百奇”(ポッキー)いろいろなブランドがあります。日本でブランドを見たらなつかしいと思います。

- ・今日は、初めて中国の外来語とブランドの意味を知りました。前はただ外来語はその発音と近いと思っていました。実は音訳+漢字の意味を生かすことです。たとえば“佳能”(キャノン)は「立派な、優れた」+「能力」という意味です。発音が近いだけではなくて、中国語での意味もいいです。

- ・外来語の中国語訳は音訳は楽ですけど、ときにそのまま訳すると余計地味に見えちゃうものもたくさんあります。例えば、サントリー“三得利”←普通に地味。ビッグエコー“必爱歌”←極めて地味、絶対に行かない。リーボック“锐步”←これも極めて地味なブランド、小学校の

時しか履いたことない。自分が履いたことあるのが恥ずかしい。アップル“苹果”←これも普通に地味。みんな普通に“苹果”って言うんだけど、やっぱり英語表記 apple がいい。何で中国訳にしたら地味に見えるのだろう。

2.2.2 日本人学生から

・大学に入って中国語を勉強し始めて一番面白いと思ったのが、今回の授業でやった外来語とブランド名でした。外来語やブランドがすべて中国語簡体字で表されていて、中国語だと堅い印象もありますが、字から意味をくみ取れ得るというのは日本のカタカナ表記と違ってよいなと思いました。

・中国語は全く分からない私ですが、英語などと違って書いてある文字を見て、そこから意味を推測できる気がします。サントリーのように音で分かるものだと思いますが、ペプシコーラなど文字だけみても分からないですね。

・コカ・コーラは音訳と漢字の意味もうまく備わっていて、ベンツとかキャノンとかも両方の意味が備わってるのに感心した。

・台湾に旅行した際に見たことがあるものが多かったです。パッケージや色が似音と同じだと中国語が分からなくても買っていました、せっかくなら中国語を理解した上で、購入できるようにしたいと思いました。

・意味から訳したブランドがあれば、音と同じになるようにあてはめているブランドもあって、面白いと思いました。次回、中国語圏に旅行する時は、コンビニやスーパーの商品だけでなく、看板も気にして見てみようと思いました。

・コスメブランドを見てみると日本と中国のイメージモデルが異なるだけで、そのブランドが持つイメージが全く違うものに感じた。

・日本の外来語は耳から入った情報をカタカナで表記されたものであるが、中国の外来語は音訳や意識など複雑だと感じた。

・中国でのブランド名は音をそのまま表記しているのかと思ったら、意味で中国語訳しているものあって驚きました。音中心のものも、意識のものあって面白いと感じた。

・ベンツとか、ヴィトン的高级ブランドは音を重視していると思う。

・外来語を中国語に訳す時、音が近い漢字をもとにして、更に一目で特徴が分かる漢字をあてるようですが、音を聞こえたとおりにカタカナにする日本語に対し、中国語は想像力とセンスがないとできないなと思いました。

・中国語で表記されているお店の名前や商品は、頑張ったら読めそうな感じがするのと読み方を知った時に「なるほど!」と思うのが楽しいと思いました。漢字の意味や音から推測するのは同じ漢字を使用している日本人しかできないと思いました。

2.3 第8章「人気の本、アニメと懐かしい子どもの遊び」

このテーマは以前「子どもの遊びとアニメ」として扱ったことがある。しかしテーマの範囲が広すぎたことから、アニメは中国で「人気のアニメ」とし、遊びについては「懐かしい子どもの遊び」に変更した。また中国で人気の日本人作家の本も取り上げ、「日本のポップ・カルチャー」の受容も紹介している。この章でも留学生は自分の体験を披露してくれている。

2.3.1 留学生から

・小さいとき“蜡笔小新”(クレヨンしんちゃん)というアニメを何回も見ました。「ちびまる子ちゃん」もよく知ってた。おもしろかった。授業で紹介された中国の伝統的な子どもの遊びには、知らない遊びも少しあります。地方による違いだと思います。

・子供の頃、毎晩「コナン」や「セーラームーン」などというアニメをテレビで放送していました。それは一日の中で最も楽しいことでした。

た。

・「名探偵コナン」は小さい頃から見たアニメの中で一番である。中国でのコナンの笑い話もあります。例えば「私が小学生の時コナンも小学生、私が大学生になってもコナンはまだ小学生」、「コナンのいる場、必ず殺人事件がある」という話です。

・“大魚・海棠”⁸⁾ めっちゃ見たいなあ！日本も上映したらうれしい。2年前製作中のときも注目していました。予告を見たとき、宮崎駿さんの映画のイメージができました。

・中国の伝統的な子どものあそび、私は子どもの頃あまりやったことがありません。ほとんどのあそびは今回初めて知りました。おもしろいと思っています。

・私は小さい頃、よく日本アニメを見ていました。「ちびまる子ちゃん」、「ドラえもん」「名探偵コナン」など子供時代から今まで見ています。中国でもすごく人気あります。

・子どもの時からジブリスタジオの作品大好きです。今もそうです。

2.3.2 日本人学生から

・日本の様々なアニメが中国で翻訳されるとまた日本とは違う雰囲気を感じられて面白いなと感じました。日本では声優がたくさんいて有名な声優や人気の声優がライブをしたりイベントを開いたり、日本人がアニメを見る上でも必ず「声優はだれなのか」「好きな声優がでているからこのアニメを見よう！」というように声優が重視、注目される文化がありますが、そのような文化は中国にないのかなと疑問に思いました。

・中国にそんなに日本のアニメはないと思っていましたが、「コナン」や「クレヨンしんちゃん」、ジブリなんかもあって嬉しく感じました。

・日本のマンガ、アニメが中国で人気があって嬉しいと同時に、研究されるくらいすごいものなんだなと改めて思いました。

・日本ではあまり他国のマンガなどを見かけることが少ないと思います。中国のマンガや読み物も見てみたいです。

・日本のサブカルチャーであるアニメが中国で非常に人気があることを知り、嬉しく思いました。中国語になったキャラクター名はぱっと見ただけで分かるものが多かったが、どう考えても読めないものもありました（トトロやスノーピーなど）

・村上春樹が中国でも日本同様人気作家であることを初めて知りました。

・「ちびまる子ちゃん」とか「テニスの王子さま」とか、日本のアニメが中国で人気だったりするけど、中国のアニメってあるんですか？

・マンガで日本語からの翻訳の難しい部分（オノマトペ）がそのままだった。テレビ番組などで日本のアニメに興味を持って日本語を学ぶ中国人などが紹介されますが、この翻訳できない部分も知りたいと気持ちから日本について学んだらうと思いました。

・「ドラえもん」は中国語表記の“机器猫”（機械猫）のほうが分かりやすいと思う。

・アニメは日本を代表するポップ・カルチャーだと知って、それだけ世界に発信すると影響力のあるものの一つだとわかった。外務省まで認めてる⁹⁾ということは、今後「日本＝アニメ」のイメージがより強くなるだろうと感じた。

・先生がおっしゃっていたように、カタカナの「ツ」と「シ」は外国人には難しいのは初めて知り、また「ジブリ」が「ヅブリ」になっていた話は面白かったです。

・今回一番驚いたのは、中国の「すごろく」です。今まで私がやったことのある「すごろく」はマスによって罰ゲームがあったり、当たりとして何かもらえたりしたんですが、中国の「すごろく」は進むだけなんです。

・「すごろく」が中国にもあるということだし

・オリンピック種目の中国語表記“鉄人三項”（鉄人三項、トライアスロン）、まさに鉄人だと思った。

・今から9年前の北京オリンピック、記憶に残っています。メイン会場の「鳥の巣」や水泳競技場は、当時テレビで見た際に不思議な形をしているなど印象深かった思いがあります。また全体的に中国らしさを上手く生かしていると思います。ロゴ「京」を使用し、人を表現していたり、トーチのモチーフが巻物、マスコットの意味、競技所の配置が風水を意識していたりと凄いなと思いました。日本では3年後に開催されますが、中国のように自国の特徴「日本らしさ」を生かしたキャラクターなど全体を通して表現されることを願っています。

・中国のセキュリティが強化されていると私もすごく実感していて、空港の保安検査場では引っかからないのに、一人ひとり念入りにチェックされたり、空港に入る際にも入り口で止められてチェックされたりしたのは驚きました。

・中国がロゴを作るときには、漢字をモチーフにしているものが多い印象を受けました。日本も漢字を使用していますが、ロゴを作るときには漢字でなく、日本由来のモノをモチーフにしていることが多いと思うので、中国とは考え方やアピールの仕方が違うのかな？と思いました。

・北京オリンピックのマスコットがとても可愛く、5人の名前を合わせると“北京欢迎您”（北京ようこそ！）になるとはびっくり、工夫されていてすごいなと思った。

・北京オリンピックや上海万博での都市の変化をみながら、中国独特の雰囲気が感じられ、インフラ整備による急激な変化を感じました。これから東京オリンピックを通じて、東京も変化していくのかと思うので、今あるものを、新しくできるものを良く見ておきたいと思いました。

・北京オリンピック開催では、街の人がとても協力的だと思いました。“Ask Me”と書かれたキャップをかぶったボランティアがいたり、ロゴが町中にあふれたり、マクドナルドでは5大陸メニューがあったりして、2020年に東京で開催する時もこういったようになるかな？と少し楽しみになりました。

・東京オリンピックや大阪万博が開催されたときは、私がまだ生まれていなかったので雰囲気がどんな感じだったのか全然知りませんでした。しかし、2020年に東京オリンピックが開催されることで1964年に行われて東京オリンピックの様子がテレビで放映されたのを見て知ることができました。オリンピックの影響からか日本の景気がよくなってきていると思います。北京オリンピックが大盛況の中行われたので、これから行われる東京オリンピックも成功してほしいと思います。

・中国の工事の仕上げスピードにビックリしました。上海にいたのは2003年と万博が行われた2010年だったので、その間の交通網や町の変化はなつかしかったです。上海万博には行っただけで、大混雑していて中国パビリオンには入れませんでした。

2.5 第11章「消え行く古きよき街並み」

改革開放政策、近代化政策によって1990年頃から21世紀にかけ中国では伝統住宅が軒並み取り壊され、北京や上海などの大都市だけでなく至る所高層ビルやマンションが建ち並ぶようになった。北京では「その数、数千」ともいわれる“胡同”（フートン）という多くの横町や路地、そして“四合院”と呼ばれる伝統住宅のほとんどが姿を消した。北京に限らず失って初めてその良さに気づくことも多いが不便も多い伝統住宅、近代化がもたらす光と影、保存か開発かをめぐる問題についても取り上げた。写真資料、PPTのほかビデオ、DVDの映像資料¹⁰⁾も使用

した、

2.5.1 留学生から

・お父さんは北京人です。フートンは北京だけ特有なものです。私もフートンはなくてはいけない文化の一つだと教えられてます。お父さんの時代の人たち、大体フートンの中で住んでいました。今、私たち二十代はあまり分からないと思うが、とっても大切なメモリーであり、文化であり、魅力的なものだと思います。

・四合院はうちは持っていないですが、今だともものすごく高いです。お父さんの幼馴染の一人のおじさんは四合院を持っています。でもそういう人は、今はとても少ないです。お父さんの北京の家から四合院とか、地壇とかは見えます。天安門はたぶん家からちょっと違う方向にあります。ちなみに家の下には“护城河”（護城河）があります。

・北京にいた時、胡同に行ったことがあります。四合院は狭くて古いです。それでも好きです。四合院は古い北京のシンボルで伝統的な建物です。

2.5.2 日本人学生から

・DVDで胡同の写真家の人が言っていた「高層ビルなら他の国にも沢山ある。ビルではニューヨークに勝てない。でも胡同は北京にしかない。胡同は北京だけが持つ文化だ」という言葉がとても印象に残りました。確かに北京の発展が進むということは悪いことではないし、北京にとっても必要なことだと思うのですが、その反面、北京の古きよき街並みがどんどん失われてしまうというのは悲しく感じました。もし、北京が全てビルで埋め尽くされたとしたら、そこは外国人にとって魅力的な場所ではなくなってしまうと思う。すべて取り壊してしまう前に、一歩踏みとどまって古いものを残そうという動きが出てきたことはとても良かったと思います。

・上海の古い街並みにスターバックスなどが馴染んでいて行ってみたくまりました。

・北京オリンピックで胡同という路地、横丁がなくなってしまうのは悲しいと思いました。古きよきものが沢山あるので、少しでも多く残して欲しいと思います。

・四合院、建物は大きくてすごいが、今はそこに何世帯も住んでいるのはびっくりした。北京の町並みは独特の雰囲気、日本でいう京都みたいな伝統的な昔ながらの街並みを残しているのは素敵だとおもった。

・四合院や胡同は北京にしかないと思うので、取っておいて欲しいと思いました。取り壊された時に出て来たものが売られている骨董品市場が面白そう。

・古い国営工場798が芸術村になって利用されているのも面白そうで、行ったら飽きずに見られそうだと思います。

・日本でも古い街並みは壊されつつあるが、中国でも同じようなことが起きているのだと思った。胡同の素敵な文化は残して欲しいと思う。

・中国の四合院を利用したホテルやバーに行ってみたいと思いました。

・「消え行く古きよき街並み」というテーマでしたが、どこか日本と似ている気がしました。中国の四合院や胡同は日本でいうところの東京の下町だと思います。それぞれの役割は違うと思いますが、それぞれの国の「古きよき街並み」と言う点では同じであって、その町並みの中に近代の建物が混在していて生活している。今現在は良いですが、日本も中国も将来的に新しい建物に変わってしまうと思うと残念です。

・国営工場の跡を利用した「798芸術区」もそうですが、日本でも古い民家や使われていない学校など再利用したりしているので、考えることは中国も日本も同じなのかなと思いました。なんだか嬉しいです。

2.6 第12章「伝統の味とファストフード」

近代化にともない中国の食文化も様変わりしている。伝統的な宮廷料理から“小吃”と呼ばれる小腹を満たす食べもの、街角の屋台料理、ファストフードや冷凍食品まで、生活様式の変化とともに変わる食文化について紹介した。写真資料のほか、ビデオ映像、DVD¹¹⁾ も利用した。留学生からは中国の味を懐かしむコメントが寄せられた。

2.6.1 留学生から

・中国のさまざまな“面食”¹²⁾、ファストフードを見たら中国の伝統的な味を思い出した、食べたかった。“北京烤鸭”(北京ダック)は今でも有名です。めっちゃおいしいです。日本の料理はまだ食べ慣れてないです。中国の味のほうがなつかしいです。

・“煎饼”¹³⁾ を食べたいなあ!! このビデオやばいですよ。お腹すごくすいていますよ!

・数十年前の北京の街や北京のいろいろな伝統的なスナックを知りました。北京に行ったら必ず“王府井”¹⁴⁾ に行きます。今の“王府井”は昔と同じ、沢山の“老北京”(昔ながらの北京)の食べものがあるだけじゃなくて、たくさんのデパートやビルもそびえています。「歩行者天国」になっています。

・北京ダックと言ったら“全聚德”という北京ダックの一番有名なお店が出てきますが、みんな「“全聚德”よりおいしいお店いっぱいあるよ」と言っているの、北京ダック食べるならぜひ“全聚德”じゃなくてほかのお店にも行ってみましょう。ビデオ見たらものすごくお腹すきました! 北京に帰りたい!!! 中華食べたい!! 北京の“面食”、まじで最高です。ちなみに王府井も“小吃”いっぱいあるんですけど、高いのでみんなあまり行かないです。もっと美味しくて安い店ほかにたくさんあります。買い物なら“王府井”、“西单”¹⁵⁾ とかですね。

2.6.2 日本人学生から

・中国にも日本のファミレスがあって驚いたが、日本人の人が牛丼を食べて少し味が違うってしていました。やっぱり国が違うと味も多少変わるのだと思いました。

・以前の中国は朝から多くの屋台が立ち並んで、朝ごはんを済ませるなんて、便利だなと思いました。もう少し衛生的だったら食べてみたいと感じました。

・朝から通勤途中の屋台でご飯を食べるのが普通だったなんて、私は考えられない。(笑)

・1990年代の屋台で売られているものは大雑把で、今では衛生的に心配なものが多いと思います。

・ファストフードの味が日本と同じなのか、気になります。

・以前中国に旅行に行った時、ガイドさんに「出店の中に手を洗わずに料理しているものもあるからやめたほうがよい」と言われたのですが、本当ですか?

・ヘビを食品として売っていて、生きているのにどうやって持ち帰るのですか?

・“煎饼”の工程がどうみてもクレープだった。

・上島コーヒーも中国に進出していると聞いて、発展を感じた。

・高級レストランも好きですが、中国に関しては、庶民の食べ物が中国らしくていいなと思います。

・朝食の屋台はあれだけの多くの種類が気軽に食べられると思うと、少しうらやましいです。よく揚げパンとお粥のセットがお勧めされていて、いつも気になっています。

・吉野家のメニュー、コーラと牛丼のコンビは驚きました。

・昔は中国では立ち食いが当たり前なのに驚きました。常に屋台があるのは日本と違う。

・中国料理は日本では沢山ありますが、日本の

中では美化されているように感じました。日本のほうがきれいで美味しそうにみえました。

・北京は本当に食べ物がすべて美味しそうですが世界三大料理に入るだけあるなと思いました。北京がどんどん進化して、海外からのファストフード店が入ってきたり、オシャレなレストランが多くなったりする一方で、北京の伝統的な屋台が少なくなってしまうのは悲しいので、屋台の文化もずっと続いて欲しいと覆います。先生のお勧めのジャージャー面も食べてみたいと思います。

2.7 第13章「中国トイレ事情」

日本人は中国のトイレに大変関心があるようだ。異文化の授業を始めた平成16年度、中国各地の住居と生活様式を紹介した際、日本人学生から中国のトイレ事情、いわゆる「ニーハオ・トイレ」¹⁶⁾と呼ばれる、隣との仕切りもドアもないトイレに関する質問が多く出された。第11章で中国の住宅事情を取り上げ、トイレ環境にも触れた後、本章でトイレを扱っている。筆者撮影の写真資料は十分にプライバシーに配慮し、映像資料¹⁷⁾使用しながら、留学生の反応には細心の注意を払ってきた。日本人が驚く「ニーハオ・トイレ」を自分が使用していたことを恥ずかしい、と感じる留学生がいることを心配したからである。しかし都市部ではすでにきれいなトイレへ変化を遂げた現在、留学生のコメントは「それは事実」と認め、自分もどれほど嫌であったか、実にストレートに日本人学生に伝わるものであった。

2.7.1 留学生から

・昔のトイレ本当に汚かったです。イメージとしてはビデオ通りだったです。特に古い住宅街にあるトイレは本当にヤバイです。あれはもれても入りたくないです。しかも極に臭いです。ペーパーもない、絶対にないです。(汚物が)積んでなければそれでましな程度。中国と比べ

たら日本のトイレはまるで天国のような存在でございます。今はよっぽどよくなったですけど、日本に来たらやはり感動しちゃいました。

・田舎のトイレは最悪でした。絶対行かないほうがいいです。命の為に。道端の草の中にしても、私は絶対田舎の公衆トイレ行かないです。

・中国のトイレ“厕所”(厕所)、“洗手间”(洗手间)、“卫生间”(衛生間)¹⁸⁾まですごい変化しました。私は小さい頃、公共トイレはほとんど“公厕”でした。“公厕”は便器もないし環境も悪いです。今の中国は“洗手间”、“卫生间”が普及しています。便器も設置しています。日本のトイレよりまだ“落差”があるけど以前の“公厕”より本当によりくなりました。

2.7.2 日本人学生から

・「ニーハオ・トイレ」に対して中国人も不自由だったことがビデオをみて分かりました。

・日本のトイレとかなり違っていて驚きました。ドアのほうを向いて入るトイレや、仕切りのないトイレは日本ではありえない。でも、このような時代があり、きれいなトイレが当たり前ではないことが分かったのによかったです。

・今の中国のトイレのトイレットペーパーが鍵の付いている所にあるのに驚きました。置いてあれば持っていってしまうという行動は日本では考えつかないです。日本ではホテルに泊まった時にタオルを持ち帰る人がいるくらいだと思います。

・中国のトイレも改善され水洗トイレも普及しているようだが、日本のようにトイレットペーパーを流せることはすごいことだと改めて感じた。中国以外の外国でも、流せないところがある。台湾旅行に行った時トイレで不便は感じなかったが、トイレットペーパーはトイレにある大きなゴミ箱に入れ、流さない仕様だった。

・昔から中国に住んでいてあのトイレに慣れていればいいかもしれないけど、私は絶対ムリ！

ドアがあっても、隣のトイレに他人の存があるだけでもできないのに、仕切りもないなんてムリ！

・中国のトイレ事情を学んで、少し前までの中国のトイレにとっても驚かされました。当たり前だと思っていた日本のトイレがとても素晴らしいものに思えました。

・天安門広場横や北京飯店前の歩道に、大集会用のトイレの備えがあることは、ただ歩いているだけでは絶対に気付けないので、知ることができとても面白かったです。

・北京の伝統住宅の四合院では各家庭にトイレがなかったことも衝撃的であったし、個室ドアがないことも、使用中の人と顔が合わせられてしまうことに驚いた。

・トイレ改革に企業も寄付していて親切だと感じた。

・北京のトイレは仕切りやドアがなかったりして絶対に使いたくないと思ってしまった。でも、住民一人ひとりがトイレに対し「こうして欲しい」という思いをちゃんと持っていて、言葉にして発信していけばビデオで見たように変わっていくと思いました。

・「ニーハオ・トイレ」が使用中の人と顔を合わせて挨拶ができてしまうトイレと言う意味だと知りとても驚いた。最近の環境を大事にしたパブリックトイレの画像を見たら、日本と同じくらい綺麗で、発展力って凄いなと感じました。

・北京オリンピックをきっかけに、中国が自国のトイレと他国との違いや衛生面での管理が行き届いていないことに気づき、向上させようとなったのはよいと思いました。

・大型デパートなどでトイレとは思えないほどオシャレで綺麗な空間が多い日本は、他国からも綺麗なイメージを持たれていると思います。

3. 感想票から見る「異文化」理解

異文化「理解」のためには、中国人留学生と日本人学生の双方からのコメントや意見が必要である。2. で取り上げた7つの章は日中双方の学生から多くのコメントがあり、その内容について次の授業で紹介し意見を交わすことができた。学生の関心の高かった「異文化」のテーマは自らの実体験、実経験による「等身大のもの」と言っていだろう。

しかし第1章「国家のシンボル」、第2章「風土と地理」、第3章「多民族国家」、第4章「中国の足」、第6章「色のイメージ」、第10章「京劇」の授業では、留学生からは実経験、実体験からのコメントが少なく感想票のコメントも「初めて知りました」、「勉強になりました」のように、授業を通じて自分も知識を得たという内容が多い。したがってこれらの章の授業は、留学生にとっては「自国について理解を深める」授業であり「異文化理解」の趣旨とはやや異なる授業ではなかったろうか。一方、日本人学生は、往々にして留学生が中国の代表であるかのように思い、様々尋ねてしまうが、実は留学生が中国について何でも知っているわけではないと思に至る。日本人学生にとっては、第1章「国家のシンボル」、第3章「多民族国家」、第4章「中国の足」、第6章「色のイメージ」、第9章「京劇」においても記述量の多寡は異なるが、いずれも日中を比べてのコメントや質問が記され異文化に「関する」授業であった。

4. 結び

異文化理解は、日本人学生が「日本とは異なると感じる」文化の事例を、また中国人学生が「中国とは異なると感じる」文化の事例を知るだけではなく「異なると感じること」を、率直に相手に伝えることが相互理解に不可欠だと感じる。知識としての「異文化」ではなく、自分

の当然が相手の不思議であることを、実際に「自分はこう思う、こう感じるが、相手はどうか」というやり取りを交わすことが「なるほどそうなのか」と腑に落ちるような理解につながるからである。だからこそ、授業に参加する中国人留学生には「中国と日本、ここが違う」ともっと相手に伝えて欲しい、そして発信してほしいと思う。筆者も留学生からの情報発信を促すように一層心がけたい。そうすれば必ず日本人が留学生と一緒に学ぶ「異文化理解」が、より実りあるものになるだろう。

[参考文献]

保坂律子「日中異文化理解教育の試み」、『駒沢女子大学研究紀要』2016、第23号 pp97-106

[注]

- 1) 平成16年度から「異文化との出会い(中国)」、新カリキュラムとなった平成27年度から授業名を「中国文化紀行」と変更。
- 2) その間の取り扱いテーマの変遷については保坂2016参照。
- 3) 『中国を知るビデオ こんにちは北京5 中国の大学生活』1993、相原茂企画・編集、朝日出版社。『中国を知るビデオ 北京コレクション1 北京の小学校』2005、相原茂企画・編集、朝日出版社。
- 4) 『映像シリーズ中国第2集 第2巻社会と人「中国大学事情」』2013、遠藤光暁監修、朝日出版社。
- 5) “张艺谋”(チャン・イーモウ、映画監督)、“陈凯歌”(チェン・カイコー、映画監督)、“蒋雯丽”(チャン・ウェンリー、女優)、“赵薇”(ヴィッキー・チャオ、女優)、“黄晓明”(ホアン・シャオミン、俳優)
- 6) 月曜の朝に預け金曜日の夜又は土曜日に迎えに行く託児制度。
- 7) 中国国内外からの資金援助で建設された小

学校。

- 8) 中国のアニメプロダクション B & T による劇場版アニメ「大鱼・海棠 Big Fish & Chinese Flowering Crabapple」
- 9) 外務省ホームページ「ポップカルチャーで日本の魅力を発信」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/voll38/index.html>
- 10) 『中国を知るビデオ こんにちは北京4 街から胡同』1993、相原茂企画・編集、朝日出版社。『映像シリーズ中国第1集 第2巻社会と人 北京の街角で』(DVD) 2010、遠藤光暁監修、朝日出版社
- 11) 『中国を知るビデオ こんにちは北京3 北京のうまいもの』1993、相原茂企画・編集、朝日出版社。
- 12) 小麦粉で作った食品の総称。麺類、パン、ギョーザやマントウなど。
- 13) コーリャンや小麦粉、粟の粉を水で溶いて薄く焼いたもの。中国式クレープ。
- 14) 王府井、ワンフーチン。北京中心部の繁華街。故宮の東側にある。
- 15) 西単、シーダン。北京中心部の繁華街。故宮の西側にある。
- 16) 隣の人と「ニー・ハオ」(中国語で「こんにちは」)と挨拶できてしまうことから。
- 17) 「アジア フーズフー 北京トイレ革命」1998.11.11 NHK 放送を録画したもの。
- 18) いずれもトイレを表す中国語。“厕所”(厕所)はふつうトイレのみで手洗いの水道はない。“洗手间”(洗手间)、“卫生间”(衛生間)は手洗いの設備の整った「トイレ」、「パウダールーム」時に「バスルーム」。